第２期
広聴・新ビジョン調査プロジェクト
提 言 書

2021-2022 → 2022-2023 → 2024→

phase 1 project team

phase 2 project team

Future city

第２期　広聴・新ビジョン調査プロジェクトチーム

目次

Contents

2 P～
1　プロジェクト概要

5 P～
2　活動経過概要

7 P～
3　まちづくりデザイン会議

24 P～
4　新ビジョン策定に向けて
（基本理念・将来都市像案の提言）

28 P～
5　ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの啓発について

32 P～
6　その他の活動（デジタル化）について

36 P～
7　まとめ

1　プロジェクト概要

1　プロジェクト概要

■設置目的

　薩摩川内市自治基本条例（平成２０年薩摩川内市条例第４１号）第１７条に定める市民との対話の場として設置するまちづくりデザイン会議において、広く市民や各種団体等の意見を聴き、中堅職員を中心とした人材育成・政策形成能力の向上を通じて、令和６年度の市制２０周年に向けた円滑な事業推進と令和１６年度の市制３０周年を目標とする第３次総合計画の策定に意見提案すること及び職員に対するＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの啓発に関することを目的として設置された。

■所掌事務

・市民意見の整理及び研究に関すること
・まちづくりデザイン会議の運営補助に関すること
・第３次総合計画策定に係る各種調査研究に関すること
・ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの啓発に関すること
・その他市長が必要と認めた業務

■設置期間及び構成員

　令和２年１２月１日設置から令和５年３月３１日まで
（第１期 令和 ２ 年１２月 １ 日から令和 ４ 年 ３ 月３１日まで）
（第２期 令和 ４ 年 ７ 月１９日から令和 ５ 年 ３ 月３１日まで）

■**構成員**（メンバーは所属部局の建制順に記載）

	区分	所属	職名	氏名	発令	備考
第2期　広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームメンバー	リーダー	未来政策部 企画政策課	参事補	樋口　武士	兼務	全体統括
	サブ リーダー	未来政策部 秘書広報課	〃	瀬戸口健一	〃	総括調整
	〃	行政管理部 総務課	〃	佐潟洋一郎	〃	総括調整
	メンバー	未来政策部 企画政策課	主任	前田　義和	〃	
	〃	行政管理部 財政課	〃	髙橋　華織	〃	
	〃	市民安全部 税務課	〃	峯﨑　聡史	〃	
	〃	保健福祉部 障害・社会福祉課	〃	久木元友子	〃	
	〃	農林水産部 耕地林務水産課	〃	奥薗　達也	〃	
	〃	経済シティセールス部 国体推進課	〃	帶田　公美	〃	
	〃	建設部 都市整備課	〃	大山　健二	〃	
	〃	消防局 予防課	〃	岡本　　翔	〃	
	〃	教育部 学校教育課	〃	宮内　智子	〃	
	〃	水道局 下水道室	〃	山神　理修	〃	

2　活動経過概要

2　活動経過概要

令和４年７月から第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトチーム（以下「ＰＴ」という。）によるプロジェクト会議（下表において「ＰＴ会議」という。）を開催し、薩摩川内市まちづくりデザイン会議（下表において「まちＤ会議」という。）における役割分担、テーマ確認、広聴結果の共有、広聴結果を踏まえた新ビジョン策定に向けた検討等の活動を行った。

なお、まちＤ会議の詳細については、別章にて報告する。

日付	名称	内容・テーマ等
R4.7.19	辞令交付式	第２期広聴・新ビジョン調査ＰＴ設置
R4.7.19	第１回ＰＴ会議	概要説明等
R4.7.30	第１回まちＤ会議	「薩摩川内市の好きなところ」
R4.8.9	第２回ＰＴ会議	広聴報告、ＳＤＧｓ啓発検討
R4.8.27	第２回まちＤ会議	「薩摩川内市の課題」
R4.9.12	第３回ＰＴ会議	広聴報告、「私の仕事のＳＤＧｓ」 今後のスケジュール検討
R4.9.17	第３回まちＤ会議	「薩摩川内市の１０年後のビジョン」
R4.10.6	第４回ＰＴ会議	広聴報告、「マイナンバー・デジタル化で今後進んでほしいこと」
R4.10.16	第４回まちＤ会議	「ビジョンを実現するためのアイデア」
R4.10.27	第５回ＰＴ会議	広聴報告、ＳＤＧｓ啓発検討
R4.11.12	第５回まちＤ会議	「ビジョンとアイデアの絞り込みとアクションプランの検討」
R4.11.24	第６回ＰＴ会議	広聴報告、理念・都市像検討、提言書構成検討
R4.12.3	第６回まちＤ会議	「提言づくり」
R4.12.6	第７回ＰＴ会議	理念・将来都市像仮決定、提言書構想検討
R4.12.22	第８回ＰＴ会議	提言書策定に向けた状況共有
R5.1.18	第９回ＰＴ会議	提言書策定に向けた検討
R5.2.14	第１０回ＰＴ会議	提言書策定に向けた検討
R5.2.18	市民フォーラム	運営補助
R5.3.20	提言書提出	

３　まちづくりデザイン会議

3　まちづくりデザイン会議

広く市民の意見を聴き、本市の政策や次期総合計画策定に反映することと、本プロジェクトメンバーの人材育成及び政策提言能力向上を目的として、全６回のまちづくりデザイン会議における広聴活動を行った。

この取組は、新たなビジョンの策定に向けて市民の方が語り合う場における広聴活動であり、メンバーにとって、新たなまちづくりに関する市民の生の意見を聴くことができる貴重な機会となった。

■まちづくりデザイン会議の分科会担当表

分科会名	グループ	リーダー	メンバー
まちづくり	地域経営・コミュニティ活動	瀬戸口健一	前田　義和 髙橋　華織
	男女共同・ダイバーシティ		
	SDGs・カーボンニュートラル（脱炭素）の推進		
暮らし・安全	安全安心	樋口　武士	峯﨑　聡史 岡本　翔 大山　健二 山神　理修
	市街地の魅力		
	移住・定住		
福祉・教育	若者の活躍	樋口　武士	久木元友子 宮内　智子
	子育て		
	健康・福祉		
産業振興	農漁業	佐潟洋一郎	奥薗　達也 帶田　公美
	商工業		
	観光シティセールス		

第１回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年７月３０日（土）

テーマ

薩摩川内市の好きなところ

分科会	出された主な意見
まちづくり分科会	・甑島があり、川内川が流れ、各地域に温泉が湧き出て豊かな自然がある。 ・新幹線や高速道路が整備され交通網発達していることに加え、教育面では保育園から大学まである。
暮らし・安全分科会	・自然が多い、人が優しい、歴史がある。 ・住みよいまちである。近年、マンションやアパートが多く建設され、交通の便（新幹線等）も整備された影響が大きいのではないか。
福祉・教育分科会	・困ったときに一緒に考えてくれる優しい人が多い。近所付き合いや人とのつながり、集落のコミュニティを大事にしている。 ・運動競技施設が多い。病院や学校・福祉施設が揃っている。 ・川内川を活かしたイベント等、催し物を大切にし、協力して取り組もうとしている。
産業振興分科会	・人の心の優しさ、スポーツが盛んで交流しやすい。 ・観光資源が豊富、交通の便が良く、住みやすい。 ・教育施設が整っている。

ＰＴメンバー意見（所感）

最初は緊張とぎこちなさが感じられたが、ワークショップでは世代や性別を超えた意見の交流を楽しまれている雰囲気があった。

第２回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年８月２７日（土）

テーマ

薩摩川内市の課題

分科会	出された主な意見
まちづくり分科会	・人口減少により中心部と郊外部との差がある。 ・様々な市政運営がなされているが伝わってこない。 ・学校の統廃合で地区コミュニティ協議会活動が実態と合わない。 ・コンパクトシティの実現には交通網の整備が必要 ・商店街の後継者不足、商工業者への対策 ・移定住向けの住居の提供 ・川内川・森林資源など地域資源の活用 ・限界集落の増加、地域活動の維持困難
暮らし・安全分科会	・地域住民による見守り活動の低下 ・一人暮らしの高齢者への介助 ・働く場所が少なく移住せざるを得ない。 ・病院まで遠い。移動がしにくい。 ・高齢化に伴い自治会・地区コミュニティ協議会運営が難しい。 ・就職先が少なく、若者が流出し、学校等の減少、高齢化が進む。
福祉・教育分科会	・高齢者や障害者の交通・移動の保障や移動手段の確保 ・介護保険事業所が減少傾向、高齢者の支援に影響あり。 ・夜間救急体制、マンパワー不足 ・部活動に携わる教師の負担増、外部指導者の推進 ・各学校間の連携、地域との交流を深める。 ・地域の主人公として生きるために何を学ぶのか見据えて学習する学校づくりが必要である。 ・自然や歴史、文化財など多数あるが体験がなく、地域を知らないことが多い。
産業振興分科会	・情報の発信と収集があまりできていない。 ・土木技術者等の担い手不足 ・働き方、生き方に関する選択の多様化 ・創業・起業へのネガティブな雰囲気、風土 ・人材不足と育成、起業支援 ・輸送・移動のコスト高

ＰＴメンバー意見（所感）

・地域格差と「理想」と「現実」の乖離がまちづくりの課題とあった。
・高齢化に関することが共通していることを話されていた。高齢化が大変ということではなく、ノウハウをいただいて課題解決に活かすこともできる。
・会議では、高校生から年配の方までグループに割り当てられているため、その年齢の視点から意見を出しており、いろいろな視点から見る・考えることも必要だと感じた。
・福祉・医療や子育てに関しては、関係施設や資源・人手不足が懸念され、助け合う事や、支え合う所や力の充実を図っていくことが大切であると確認した。
・どのような支援があるのか分かりにくいとの意見があった。もっと、目玉となる支援策を打ち出して、注目を集めたほうが良い。

第３回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年９月１７日（土）

テーマ

薩摩川内市の10年後のビジョン

分科会	出された主な意見
まちづくり分科会	ア　地域経営・コミュニティ活動グループ ・地域の自立助け合い、地域活動の参加、自治会の合併 ・まち全体で子育て、子育て環境の整備 ・起業支援補助金の充実 イ　男女共同・ダイバーシティグループ ・性別にとらわれない、理解しあう社会、価値観をなくす教育の推進 ・高齢者が働きやすいまち ウ　ＳＤＧｓ・カーボンニュートラル（脱炭素）の推進グループ ・廃校の利用 ・宅配サービス（ドローンによる直接配達）の実施
暮らし・安全分科会	ア　安心・安全グループ ・いつでも周囲の人々の助けが得られるようなコミュニティの構築 ・交通機関や歩道・公園の整備 イ　市街地の魅力グループ ・統一感のある街並みに整備し、娯楽施設を増やし賑やかで人が集まる場所の創出 ウ　移住・定住グループ ・子育て世代を助けてくれる街 ・中高生が「住み続けたい」と思える街 ・スポーツや若者向けのイベント等が盛んな若者などが暮らしやすい街

分科会	出された主な意見
福祉・教育分科会	ア　若者の活躍グループ ・企業と学生の連携 ・勉強を地域で活かせる起業支援（空き家を活かす等） ・職業選択の幅が広がる。 ・趣味の教室や複合施設等一人でも気軽に行ける場。交流の場 ・スポーツ施設を活かしたイベント等の開催で娯楽・スポーツが盛んになる。 イ　子育てグループ ・セミナーや学習会を通して家庭内の問題解決につなげられる場がある。 ・地域における交通の便が良くなる。 ・市外に転出した学生等に対する継続した情報提供のしくみ ・元気な高齢者の力を借りられるしくみ（有償ボランティア） ウ　健康・福祉グループ ・定年退職後も働ける環境づくり ・介護人材に対する、引っ越し費用や家賃・給与上乗せ等の補助制度 ・気兼ねなく利用できる移動手段の仕組みづくり ・タブレットの全戸配布と使い方を教える仕組みづくり ・オンライン受診等でどこにいても医療が受けられ情報を得ることができる。
産業振興分科会	ア　商工業グループ ・ＵＩターン、都会からの移住、海外からの受入 ・中高生の職場体験のジャンルを増やす。 ・川内ならではのことを学べる大学 ・社長・経営者を育てる学校 ・船社誘致、川内港背後地の倉庫整備 イ　観光シティセールスグループ ・寺山公園、丸山公園のイメージアップ ・廃校活用、若者のチャレンジ支援 ・ゴルフ観光、温泉、歴史、史跡、道の駅の活用、レジャー施設の整備

ＰＴメンバー意見（所感）

・市で生活している現状やこれから先の未来に向けた希望や懸念（不安要素）について様々な意見が出された。
・必要と考えられる仕組みには共通する項目も多く、世代を越えた交流や企業地域・企業と等との連携、移動手段（交通の便）の充実等が必要という意見があった。また、高校生からは働く場だけでなく休日(娯楽)の充実について意見が出された。
・幅広い議論が交わされた中で、やはり、まちの活気は若い人たちが生き生きと暮らしてこそ生まれ、育まれるものだと意見集約できるのではないか。そこからたどると、「ＵＩターン」、「就職先の増加」、「若い人たちが集まる場所をつくる」といった姿・キーワードが浮かんできた。

第４回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年１０月１６日（日）

テーマ

ビジョンを実現するためのアイデア

まちづくり分科会			
グループ	地域経営・コミュニティ活動	男女共同・ダイバーシティ	ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの推進
キャッチフレーズ	市民が一体となった住み続けたいコンパクトなまちづくり	これからの時代、大切になる“多様性”	ＤＯＳＳＡＩ（どっさい）＝みんなが集まれる拠点＝ＤＯ（皆でやる）ＳＳ（さつませんだい）ＡＩ（愛）
アイデア	・若者の愛着心を向上させる取組 ・まちの施設（バス停など）を高校生が廃材で作る取組（地域活動） ・行政と全住民（多くの世代）が一緒になって自治会活動	・大人がダイバーシティを知る。 ・自分の壁を取り除く。 ・企業で外国人従業員と交流サポート ・外国人との継続的な交流イベント	・廃校利用 ・生きがい・できること探し ・フラットな関係 ・若者も高齢者も集える場、フリースペース ・教育の場でもっと環境を学べる場

暮らし・安全分科会			
グループ	安全・安心	市街地の魅力	移住・定住
キャッチフレーズ	ピンチと不便さで気付くまちの魅力	おしゃれで若者が集まる街	隠れた魅力を発信するまち
アイデア	・中高生を中心としたボランティアグループを増やす。 ・老若男女が楽しめるイベントの復活 ・過疎地において工ネルギースタンドを増やす。 ・洋式トイレを増やし、清潔さを保つ。 ・災害時に備えた食糧の自給自足体制	・市街地の中心に芝生広場のある大きな公園を作り、音楽イベント等を開催する。 ・若者が気軽に勉強できるような図書館を作る。 ・他にはない魅力のある施設を作る。 ・仕事をするコワーキングスペースの創出 ・新田神社の参道の整備 ・南九州西回り自動車道の整備による熊本との交通網強化	・川内三大祭りや泉源の良い温泉などの魅力を発信する。 ・船舶料金の値下げ ・後継者不足に悩む産業と移住定住者とのマッチング ・子育て世代には無償化できる項目を増やし、生活面の負担を軽減する。 ・英語キャンプなどで外国人や地域の人と触れ合う。

福祉・教育分科会			
グループ	若者の活躍	子育て	健康・福祉
キャッチフレーズ	仕事と娯楽の充実したまち	みんなが心から子育てを楽しめるまち	安心して働き暮らしていける地域
アイデア	・地元企業のことを知る機会 ・企業と学生の連携 ・勉強を地域で活かせる起業支援 ・ひとり暮らしの住まいの確保 ・趣味の教室や複合施設等一人でも気軽に行ける場、交流の場 ・スポーツ施設を活かしたイベント等の開催	・子育て関連の仕事をしている人がたくさん集まる。 ・セミナー、学習の場がある。 ・子育てに夢を持てるよう、行きたくなる多世代交流の場づくり ・セミナーや学習会を通して家庭内の問題解決につなげられる場 ・元気な高齢者の力を借りられる仕組み ・シングルマザー・ファザーの支援	・自分の体力に合わせて働き続けられる仕組みづくり ・介護人材に対する、引っ越し費用や家賃・給与上乗せ等の補助制度 ・どこにいても気兼ねなく利用できる移動手段の仕組み ・タブレットの全戸配布、使い方支援 ・オンライン受診等で医療を受けられ情報を得られる環境づくり

産業振興分科会			
グループ	農漁業	商工業	観光シティセールス
キャッチフレーズ	農林漁業者がいきいきと働ける街！	薩摩川内流　幸せ大革命！	市内の人も市外の人も楽しめるまち～テンションは右肩あがり～
アイデア	・働きたい人の相談窓口 ・新規参入者の育成 ・陸上養殖や、ICT、LOTなどで、自動で管理できるシステムの構築 ・身近な場所に特産品を購入できる場所（例えば川内文化ホール跡地） ・小さいころから漁業を知る。学生への出前講座 ・キャラクターを活用したイメージづくり ・市民へ旬のものを届けるための情報発信	・空き家を有効活用できる仕組みづくり ・シニアが活躍できる仕組みづくり ・高校生の地元就職支援の充実 ・企業間の人の交流の仕組みづくり ・自営業が事業継承できる支援の充実 ・物流サービス産業の向上	・観光資源の発掘と再評価として、まずは市民がまちの観光資源を知ることが大切⇒今と昔を比べられるようなコンテンツの活用、まちのことを知るサイトやきっかけづくりや地元を知っている人がうまく情報を拡散できるような仕組みづくり ・ほかの街と違いを出すためには、観光資源の見せ方を工夫する。

ＰＴメンバー意見（所感）

・ビジョンを絞り込み、グループ間で交流することで、新しい視点で話ができ、アイデアが膨らみ、意見がどんどん出ていた印象があった。この作用をまちづくりに生かしていけたらと感じた。
・テーブルメンバー入替により女性のみの構成となったグループでは、古民家を生かしたカフェやコワーキングスペースの設置など若い女性の視点からの柔軟な発想があり、ビジョンを実現するために様々な角度からアイデアが出され大変興味深いものであった。

第５回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年１１月１２日（土）

テーマ

ビジョンとアイデアを絞り込み深める

まちづくり分科会

グループ	地域経営・コミュニティ活動	男女共同・ダイバーシティ	ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの推進
ビジョン	人口減少に見合った地域経営・コミュニティ組織をつくり、全市民で助け合いの精神で地域活動に取り組んでいる。	年齢、性別、国籍などにとらわれず多様な価値観を認め合う。	職場でもない家庭でもない場、拠点づくり
アクションプラン	テーマ型活動について討議する場をつくる。	外国人を含む多様な層を対象とした継続的な交流イベント	ＳＤＧｓの観点に基づいて多種多様なプログラムを展開する拠点・機運づくり

福祉・教育分科会

グループ	若者の活躍	子育て	健康・福祉
ビジョン	自分の好きな、やりたい仕事（福利厚生を含む。）が見つけやすく、若者が薩摩川内市での暮らしを積極的に選ぶ。	子育てを尊重する社会として子育ての支援が充実していて、子育てに夢がもてる。	高齢者・障害者も、生き生きと働き続けながら、地域で支えあっている。
アクションプラン	薩摩川内市の仕事や働く人を知る、高校生企業訪問バスツアー	子育ての段階に合わせた支援の充実。みんなで子育てをする社会・学びの場の提供	高齢者、障害者も、働き続けられるモデル事業をつくり、市域全体に広めていく。

暮らし・安全分科会			
グループ	安全・安心	市街地の魅力	移住・定住
ビジョン	いつでも周囲の人々（特に若者）の助けが得られるような地域のハート♡がある。	市民が市を好きになるようにおしゃれで若者が気軽に集まり全ての人達が交流できる。	薩摩川内市の自然、生活、仕事などの魅力にひかれて、移住する人が増加している。
アクションプラン	お互いに助け合える機運づくり	人が集まり交流する場づくり	・地元で開催しているイベント（川内～レガッタ、甑島～つり、入来～パラグライダー）を移住者向けに行う。 ・仕事×住まい×趣味の情報がワンストップで分かるWebサイト ・地域の人材不足で困っている人や地域おこし協力隊、コミュニティ、有名人などを活用

産業振興分科会			
グループ	農漁業	商工業	観光シティセールス
ビジョン	一次産業が活気にあふれ、若い人が農業や漁業に興味を持っている。	全世代が活躍できる働き先があり、町の中心部に娯楽などが集積し、魅力的な場所になることで人口が増える。	薩摩川内市民の一人ひとりが街に誇りを持ち（郷土愛）、薩摩川内の観光資源が発掘・再評価されている。
アクションプラン	薩摩川内の農漁業について若者が知る機会を増やす。（担い手を確保・育成するため様々なところと連携した情報発信）	企業間スタッフの人材交流のしくみをつくる。	地元を知る人の知識を、情報ツールに長けている若者と共有・拡散させる仕組みづくり

ＰＴメンバー意見（所感）

・各分科会に入る前に、全体会議で他の分科会の内容を情報収集できたことから、各グループともビジョンを実現するためのアイデアは活発に出されていた。
・全体会議で他の分科会の内容を情報収集できたことから、全体としての方向性がイメージできたとの声が聞かれた。メンバーの移動もあり、新しい視点からのアイデアやアクションプランについて活発に意見が出されていた。
・今回の会議では、前回までの分科会を受け、全体としての会議を行い、各分科会の方向性を確認した。各分科会のビジョンでも同じような課題が出ていることを受け、共通的な課題を住民の方々が感じていることが分かった。

第６回　まちづくりデザイン会議

■開催日	令和４年１２月３日（土）

テーマ
提言づくり

まちづくり分科会			
グループ	地域経営・コミュニティ活動	男女共同・ダイバーシティ	ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの推進
シーン	地域・コミュニティが再編され移住者が多くなっており、イルミネーション仮装コンテストに人が集まり過ぎて困っている。	外国人との交流イベント終了後	認定こども園での出前授業
場　所	地区コミュニティ協議会　会長会	イベント会場	認定こども園
役　割	４８地区コミュニティ協議会会長、阿久根市から移住してきた若い新規農家など	ロシア出身で市役所勤務、薩摩川内市出身の高校生など	漁師歴２５年の漁師、海の授業の主催者で４月から社会人になる高校３年生、甑島の海から来たウミガメなど

暮らし・安全分科会			
グループ	安全・安心	市街地の魅力	移住・定住
シーン	被災者からＴＥＬがあるシーン	１０年後のとある日のマチナカ拠点	１０年後…こしきしまのイカ釣り大会の会場で…
場　所	川内駅内　物産協会事務局	空店舗若しくは空家をリノベーションした拠点	長浜港
役　割	被災者、ＮＰＯ事務局職員、けん玉教室のメンバー	若い子（利用者）、拠点のリーダー、仕えてくれる大人など	インフルエンサー、イベント主催者など

福祉・教育分科会			
グループ	若者の活躍	子育て	健康・福祉
シーン	企業訪問バスツアーに参加　進路に悩む３人だが・・・	パートナーと心から子育てを楽しんでいる。	事故に遭い、今後の働き方に困る社員と社長が、専門センターに相談し解決していく。
場　所	「空き家活用カフェ」古民家活用アニメ&カフェのコラボ店	自宅	企業Ａ
役　割	高校生①（就職したいと思っているが、就職先に迷っている）、高校生②（就職か進学に迷っている）	パパ（高校時代に子育ての大切さを学んだ。育児休暇を取得、家事・育児に奮闘中）、ママ（２人目を出産後職場復帰）など	家庭のある男性社員（交通事故に遭い脊椎損傷。車椅子での生活となる。仕事を続けたい）、「安心・働きセンター」の専門相談員など

産業振興分科会			
グループ	農漁業グループ	商工業グループ	観光シティセールスグループ
シーン	新人漁師が先輩漁師と中心地にできた直売所で初めて自分の魚が店に並ぶのを見る。お客さんと会話をして、自分たちの魚が人に喜んで食べてもらえていることを知る。	とあるサイトを利用した税理士事務所とある親子の会話	市民の情報共有と拡散
場　所	町の中心地にできた直売所	職場と家庭リビング	仮想空間（メタバース）での薩摩川内
役　割	新人漁師、先輩漁師、買い物客	税理士事務所所長、一人暮らしの母、息子	地元をよく知っている人、拡散役（親善大使）、情報を探しに来た人

ＰＴメンバー意見（所感）

・今回が最後の分科会ということで、和やかにシナリオ作成が行われていた。出来上がったシナリオ発表では、迫真の演技も見られ、笑いも起きていた。
・まちづくりデザイン会議は７月に初回があり、顔を合わせ、同じ目標に向かってきた方たちということもあって、今回も積極的に意見、アイデアを出し合う姿が伺えた。
・シーンや配役についても、これまでの多様な視点からの意見を反映させたり、セリフ内に盛り込んだりと気持ちのこもった発表となっていた。

市民フォーラム

■開催日	令和５年２月１８日（土）

テーマ

提言発表

提言発表の概要

・「まちづくりデザイン会議」で委員が検討した「10年後のまちの姿」を、4分科会で、12のテーマに沿って提言発表を行った。

まちづくり分科会

暮らし・安全分科会

福祉・教育分科会

産業振興分科会

４　新ビジョン策定に向けて
（基本理念・将来都市像案の提言）

4　新ビジョン策定にむけて

（基本理念・将来都市像案の提言）

令和７年度を始期とする新ビジョンの策定に向けて、前章で取り上げた「薩摩川内市まちづくりデザイン会議」での広聴活動を踏まえて、第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームとして、未来のまちづくりに向けた基本理念と将来都市像の検討を行った。

1　策定に向けた検討・整理

まちづくりデザイン会議での各分科会における広聴活動を通じて、本市の抱える現状・課題」を把握し、その現状・課題を踏まえ、今後目指していく「ビジョン」・「キーワード」の検討を行い、「目指すべき方向性」「基本理念」を整理した。

各分科会で検討したもののうち、共通する項目として、少子高齢化・多様化する中で、安心して暮らせること、働く場があること、若者が魅力を感じることが挙げられた。

2　基本理念・将来都市像案

上記の検討を踏まえた、本市の今後のまちづくりに向けた基本理念及び将来都市像の案について、第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームにおいて、各自で提案を行った。

ＰＴ会議において投票を行い、得票数の多かった提案を基に基本理念と将来都市像の文言等について協議を行った後、その協議結果を踏まえ、新ビジョンの担当班が再度、基本理念及び将来都市像案を作成し調整を重ねた結果、次の方向性で進めることとした。

■「基本理念」という用語を「まちのイメージ」とする
■「将来都市像」という用語を「未来の姿」とする
■まちのイメージを「漢字１文字」で表す
■まちのイメージの要素を未来の姿にリンクさせる

これらを踏まえて、第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームとして、次のとおり、「まちのイメージ・未来の姿」の案を提言する。

まちのイメージ

賑【にぎわう】 新たな交流が生まれ 賑わうまち	産業・イベント・地域活動などにより、性別・世代・国籍を問わず人や物の交流が生まれ、みんなが楽しめる憩いの場に**賑わい**があふれています。
安【やすらぐ】 誰もが安心して 暮らせるまち	災害に負けないまちをつくり、人生100年時代を見据えた健康をつくり、ゆとりを持って子育てできる環境をつくり、**安全と安心**とともに生活します。
繋【つながる】 世代を超えて 繋がるまち	古き良きものを知る世代が、地域に根付く歴史を後世に伝えていくとともに、ＳＤＧｓやデジタル化などの新しい動きを若い世代がリードすることで、だれもが**繋がり**の持てるまちをつくります。
輝【かがやく】 お互いに認め合い 輝くまち	このまちを知り、愛し、その良さを発信し、多様性を認め支え合い、誰ひとり取り残さず、みんなが**輝く**ことができるまちをつくります。

未来の姿

賑わいと安らぎが持続し

人と人が繋がり輝くまち　薩摩川内

５　ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの啓発について

5　ＳＤＧｓ・カーボンニュートラルの啓発について

「薩摩川内市SDGsチャレンジ」ロゴマーク

1　啓発について

本市においては、令和３年６月８日に、市長が「薩摩川内市未来創生ＳＤＧｓ・カーボンニュートラル宣言」を実施し、２０３０年のＳＤＧｓ達成及び２０５０年のカーボンニュートラル（以下「ＣＮ」という。）達成に向けて取り組んでいる。令和４年５月２０日には、内閣府のＳＤＧｓ未来都市に選定され、ＳＤＧｓ及びＣＮ達成に向けた機運が高まっているところである。

本ＰＴの前身組織である第１期プロジェクトチームにおいては、ＳＤＧｓの推進に向けたＳＤＧｓキャッチコピーとして、本市としてＳＤＧｓに積極的に取り組む姿勢を表現した「薩摩川内ＳＤＧｓチャレンジ」を選定した。第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトにおいても、設置目的の一つであるＳＤＧｓ・ＣＮの更なる啓発活動の検討を行った。

2　本ＰＴにおける検討体制について

ＳＤＧｓ・ＣＮの推進に当たっては、行政による活動も重要であるが、市民、地域、事業者等との連携や意識付けも欠かせないものである。

本ＰＴにおいては、ＳＤＧｓ・ＣＮについて、職員および市民が身近に感じ考える機会をより増やすため「職員向け」と「市民向け」に分けて、両方の側面から啓発する方法を検討することとした。また、啓発に当たり先進の取組や面白い取組を実施している他市町村等の取組の事例を紹介することとした（別冊参照）。

3　ＳＤＧｓ・ＣＮの啓発に向けた提言

■職員向け

キャッチフレーズ

「来る未来のために私たちが自ら動こう」

下記方法を提言する。

テーマ	取組内容
ロゴマーク・目標の掲示	・普段の業務がＳＤＧｓ・ＣＮの目標達成につながっているという意識を持つため、まずは各部署で目標を定め、その目標やロゴマークを窓口カウンター等の市民の目につくところに掲げることで、職員一人ひとりの知識や自覚を深める。 ・「薩摩川内ＳＤＧｓチャレンジ」ロゴマークを職員ネームに入れることで、職場全体として取り組んでいることをアピールする。
評価	各部署で自分たちにできるＳＤＧｓの取組を決めて、年度末にその取組の評価（振り返り）をする。
新着情報等による周知	持ち回りで各部署に関連するＳＤＧｓ等の紹介を職員ポータルに掲載し、職員共有を図る。

■市民向け

キャッチフレーズ

「 “知っている”ことから“やっている”ことに変えよう 」

下記方法を提言する。

テーマ	取組内容
広報紙・市公式LINEアカウントの活用	・市の広報紙や公式LINEアカウントでＳＤＧｓ等の関連記事やクイズを定期的に発信していく。 【例】日常で気軽にできるＳＤＧｓや「生活の知恵」となりうる節約術、ＳＤＧｓの啓発・推進を業務とする地域おこし協力隊員のコメントの掲載 ・市のＳＤＧｓの取組を学校（子供と保護者へ浸透）、自治会（高齢者）などを中心に発信する。
ロゴマーク・目標の掲示	・市の公共施設やポスター・看板など、その施設等に関連するＳＤＧｓのロゴマークを掲示し、その目標を掲げた説明を紹介する。 ・公共交通機関にＳＤＧｓのラッピングを行い、車内等にもＳＤＧｓ関連のポスターを掲示することで、周知を図る。 ・市指定ゴミ袋にＳＤＧｓのロゴマークを印刷する。
体験	市内で開かれる祭りやイベントにて、来場者の負担にならない範囲でＳＤＧｓ体験を取り入れる。 【例】プラスチック製品を使わない取組の実施

4　まとめ・所感

今回、ＳＤＧｓ・ＣＮの啓発に関する本プロジェクトでの検討に当たり、その第一歩として「私の仕事のＳＤＧｓ」と題し、各メンバーの業務がＳＤＧｓとどうのようにつながっているのか紹介する場を会議に設けた。

これまで、日常生活や職場業務は、「ＳＤＧｓとの関連は遠いもの」と認識していた。しかし、実際に業務と目標を紐づけてみると、どの業務も少なからずいずれかの目標につながるのだと気付かされる良い機会となった。

本市では、「薩摩川内市未来創生ＳＤＧｓ・カーボンニュートラル宣言」の実施や内閣府の「ＳＤＧｓ未来都市」の選定により、今後ＳＤＧｓ及びＣＮの目標達成に向けて、職員は当然のこと、市民一人ひとりの意識向上がより一層必要となる。その中で、本提言が市の今後の取組に寄与し、職員・市民の意識向上のきっかけづくりになることを願う。

６　その他の活動（デジタル化）について

6　その他の活動（デジタル化）

1　デジタル化に係る検討活動の趣旨

本市においては、マイナンバーカードの普及やオンライン手続の推進をはじめ、ＩＣＴを利用した業務改革など、デジタル技術を駆使し、業務を変革する「行政ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）」を実現するために、令和４年３月に「スマート経営・行政ＤＸ方針」を策定し、横断的・全庁的に取組を進めている。

また、令和４年８月には、マイナンバーカードの普及促進及び利活用方策をはじめとしたデジタルトランスフォーメーションを推進する方策の検討を行う「スマートシティ・マイナンバーカードプロジェクトチーム」が設置され、スマートシティの実現に向けた取組が進んでいるところである。

スマートシティの実現に向けて職員一人ひとりが改革意識を持つことが求められており、「スマートシティ・マイナンバーカードプロジェクトチーム」による専門的な活動のほか、第２期広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームにおいても、中堅職員で構成されるメンバーの視点から、業務や広聴活動を通じて感じるデジタル化に向けたアイデア等の検討を行った。

2　デジタル化の提言

本プロジェクトチームでは、マイナンバーカードの利活用やデジタル化全般において、今後進んでほしいと感じることについて、これまでの業務経験等に基づいた提案と検討を行った。

なお、より柔軟な発想・視点によるアイデアとなるよう、予算化や実現が容易ではないものも含めたアイデア出しを行った。出された意見については、第２次薩摩川内市総合計画後期基本計画における施策体系の政策ごとにまとめた。

■政策Ⅰ　健康･福祉

区　分	取組内容	効　果
交　流	条件登録などを行い、人材募集や取引先開拓、出会いの場が提供されるマッチングサービスのアプリ等を作る。	業務に関わらず、個人的なものでも様々な需要と供給に対応することで、悩み解決がスムーズになる。
子育て	児童生徒に関する情報の連携（異動届に関する手続の簡素化、校区外通学の手続や判定、新入学児童の通知書の省略）をする。	子育て・教育・福祉の情報連携による包括的な支援の充実につながる。

■政策Ⅱ　生活環境

区　分	取組内容	効　果
防　災	災害時における被災状況、位置情報をデジタル化する。	時間経過と共に変化する被災状況を、随時更新することで、住民や防災関係者へのタイムリーな情報共有ができ、避難や災害対策の効率化につながる。
	１１９番通報を受ける指令台において、世帯主や住所を確認のみで、家族情報などが表示されるようにする。	家族情報などが分かることで、災害時に情報が取りやすくなり、家族の早急な安否確認などにつながる。救急現場においては、病院搬送の迅速化につながる。

■政策Ⅲ　産業振興

区　分	取組内容	効　果
産　業・観　光	イベントでのバス利用の際、人数に対するバスの大きさ、目的地までの道がバスでの通行が可能か、目的地での駐車が可能か等の情報取得が簡単にできるようにする。	バスの見積等をとった際に、工程による見積内容が正しいかどうかの確認が容易になる。また、事前にルート内容が把握でき、イベント当日に確実な運行ができる。

■政策Ⅳ　社会基盤

区　分	取組内容	効　果
建　設	建設関連の設計業務において、現場にて測定した設計、出来高数値等を端末上で入力するだけで各数量表、図面に反映させられるようデータベースにて一元化する。	処理が早くなり省力化することができ、また、ミスをなくすことができる。

■政策Ⅴ　教育文化

区　分	取組内容	効　果
教　育	スクールバス利用者のマイナンバーの読み取りを行い、確実な乗車、降車の確認を行う。	カードの読込により利用履歴も残るほか、事業所の報告書作成に役立つ。また、乗車履歴を管理することにより、学生、園児のバスの乗車、降車ミス防止にもつながる。

■政策Ⅵ　地域経営

区　分	取組内容	効　果
業務効率化	会議録作成に当たってＡＩを活用した音声認識システムを導入する。	内容の報告が早くなり、事務処理の簡素化につながる。
	リモートワーク設備を充実させる（自宅端末で職場端末を遠隔操作できるシステム等）。	テレワークの状況下においても、業務を継続して進めることができ、市民サービスを継続することができる。
	財務帳票や課税調査資料（図面等）などの紙媒体の資料や保管書類をデータ化する。	書類のスペースを空けることで、他の業務に活用できる。また、閲覧する際に、検索等ですぐに確認したり、印刷が可能になる。
	届出等の書類を受理したら手入力でデータ入力していたものについて、書類をスキャンしたら自動で入力、登録できるシステムを導入する。	申請等の受付、処理が早くなり、住民の待ち時間短縮につながる。
総　務	職員の性格、得意分野、苦手分野、適正等を組み込んだ人事配置案の作成をする。	各部署に適材適所の人材を配置することで、より良いアイデアが生まれ、良い結果につながる。
	例規制定又は改正について、各種条件を指定すれば、文書化してくれるシステムを開発する。	関連する文章などを自動で精査することで、わかりやすく、体裁の整った文書となる。
市民窓口	市役所での手書きによる申請や通帳、印鑑を持ってきて申請しているものについて、スマホやマイナンバーカードの活用により自動入力、自動作成等ができるサービスを開発する。	住民、職員の負担が少なくなるほか、氏名・住所等の記載誤りの防止が見込まれる。
税	登記簿へのマイナンバー情報を反映させる。	登記時から住所等が変更になっているケースが多いことから、マイナンバーによる最新の情報との紐づけにより追跡調査に係る事務負担の軽減につながる。

■実現したデジタル化

検討の中で出された意見の中で、実現された次のようなものもあった。

区　分	取組内容	効　果
市民窓口	市からの還付金等を振り込む口座をマイナンバーに登録した口座にする。	職員の事務改善が図れる。

3　まとめ･所感

今後、デジタル化が進む中で、「現時点では、予算・制度上、実現できないが、今後実現するもの」が増えていき、実現することで、住みやすい薩摩川内市の一助となる。

デジタル化することで、各種手続きや申請などに関する市民への行政サービスの向上、データ管理を進めることで業務の効率化やペーパーレスにつながり将来的には大幅なコスト削減が見込める。これらは、市民のニーズに応えるため、国際社会からも取り残されないためにも進めていくべきものである。

7　まとめ

7　まとめ

■まちづくりデザイン会議の果たした役割

第３次総合計画策定に向けて、高校生、大学生のほか、各種団体や公募で選ばれた方々が、和やかな雰囲気の中、ワークショップなどを通じて将来の薩摩川内市をどうするべきか、意見を出し合ってもらった。年齢や立場を超えた議論の中で出された意見の中には、私たちが気づいていないまちづくりの「ヒント」や「キーワード」もあり、私たちにとっても新たな発見があった。このような市民の生の意見を出していただくことがデザイン会議の目的の一つである。今後、これらの意見を精査することにより、総合計画はさらに市民の意見を反映したものになると思われる。

■新ビジョン（基本理念・将来都市像案）の提言について

提言に当たっては、多くの自治体の好事例に学ぶ中で、表現・内容ともに「分かりやすい」ことが大切だと考え、指針とした。また、まちづくりデザイン会議に参加し市民の想いに直に触れることで、薩摩川内市には何が充実し何が足りないのか改めて感じ取ることができた。これらを基に、１３人のメンバー全員が基本理念・将来都市像案を提案した後、デザインを含めて何度も何度も意見を交わし最終提言を造り上げるに至った。提言の中にもあるが、古くても大切なものは守って残していく一方、新しい時流に乗るべきは取り入れる、という「選ぶ力」が、今後ますます試される時代になっていくものと思われる。

■第２期　広聴・新ビジョン調査プロジェクトチームの活動を終えて

市民の皆様の６回にわたる「まちづくりデザイン会議」に参加し、本市の将来像を議論される場の広聴を通じて、普段の業務においては触れることのない貴重な経験をさせて頂いた。

本提言書の作成においては、メンバー間においても、本市の将来像やあるべき姿等について、活発に議論を行い、とりまとめに至った。

今回、プロジェクトチームに参加して、同年代の職員同士で、議論し話し合う機会を頂いたことで、各々の業務分野における課題や、展望について知見を深めることができた。

今後においては、今回のプロジェクト活動で得られた経験を業務に活かしていきたい。

第２期　広聴・新ビジョン調査プロジェクトチーム